



足立としゆき夢だよりは、足立としゆきの国政での活動状況をお知らせするメルマガで、ご登録頂いている方々に2~3週間に1度メールで配信させていただいています。今回はその番外編として、4月26日（月）に行われた参議院決算委員会で「インフラ整備と日本の豊かさ」をテーマに、赤羽一嘉国土交通大臣、中西健治財務副大臣等に質疑をさせていただいた状況についてご紹介します。

我が国のインフラ整備水準向上のための公共投資

激甚化する水害への対応について赤羽国土交通大臣に質問したところ、「気候変動の影響によって降水量の増大でこれから洪水リスクがどれだけ増えるかということ踏まえた流域治水の具体的な計画を作っていく、これがこれからやらなければいけない対応だというふうに思っております。幸い5か年で15兆円という防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策も確保していただいておりますので、こうしたことを踏まえながらしっかりと対応していかなければいけない。」とお答えをいただきました。

また、頻発する地震に対しても、「インフラの耐震対策というのは、人的被害や短期的な経済被害だけではなくて、長期的な経済被害の損失の防止という観点からも極めて重大だところ思っております。流域治水と同じ重要度を持ちながら、しっかりと耐震化を進めていかなければいけないと、こう決意をしておるところでございます。」とのお答えをいただきました。

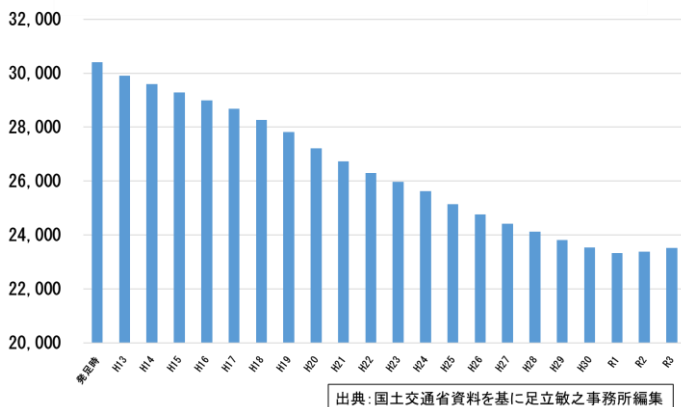
一方、中西財務副大臣からは、インフラの整備水準の向上のための公共投資について、「公共事業予算については、厳しい財政事情も踏まえつつ、政策効果を高めるために重点化、効率化を図っていききたい。」とお答えをいただきました。

また、豊かさを感じられる社会の実現に向けての公共投資については、「国民一人一人が生活の豊かさを実感できるようにしていかなければいけないと、それが政治の大きな役割だというふうに思いますので、インフラ整備も含めて幅広い政策手段を効果的に活用していくことで、国民が生活の豊かさを実感し、国の将来は明るいと思える社会の実現に全力を尽くしてまいります。」とお答えいただきました。

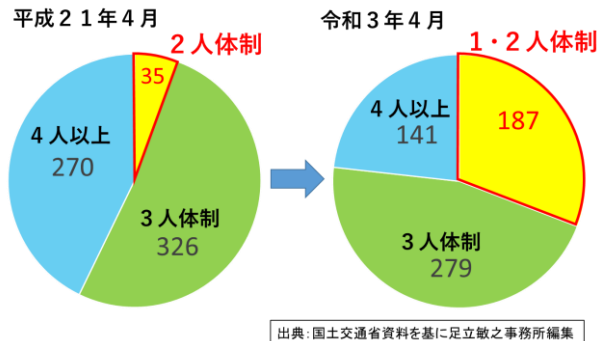
現場事務所における体制の現状

近年の災害の頻発に対応し、公共事業を円滑に進めていくため、「担い手である国土交通省の現場でしっかりとした体制、人員の確保がされている必要があると思います。資料に国土交通省の現場の定員の推移を示しましたが、定員削減の影響で長年、整備局等の定員が大幅に減ってきております。昨年は初めて定員増もありましたが、やはりまだまだ現場では、現場の出張所で一人体制、あるいは出張所長と係長の二人しかいない二人体制、というような事務所が増えており、ある意味致命的な状況になっているのではないかと考えております。」と現場の実情を訴えさせていただきました。

国土交通省地方整備局の定員の推移



国土交通省 地方整備局 出張所の状況



日本のインフラを再生するための体制の整備

国土交通省における現場事務所の体制の現状を踏まえ、「災害への危機管理対応とあわせてインフラ整備を進め、諸外国と肩を並べられるような質の高い国にしていくためには、国土交通省の人員体制をしっかりと確保することが必要ではないか」と、赤羽国土交通大臣に伺ったところ、「現場の一番大事なところが、一人事務所とか二人事務所というぎりぎりのところでやっているということで、これだけ災害が増え、ニーズが増え、またテックフォースに対する各首長さん、地域の、被災地の評価も高くなっているときに、国が直轄代行もやらせていただかなければいけない場面も増えている中で、人数が大変厳しいというのは何とかしなければいけない。行政改革の中で、国土交通省発足時から令和元年までで7,000名、約23%減少しましたので、当時の菅官房長官に、人員はもう絶対にプラスにしてもらいたいということ強く申し上げ、去年は57名の純増、そして今年には134名の純増でございますので、必要に迫られてのことではありますが、しっかりと人員を補強していただいて、現場の体制、万全を尽くせるように整えていきたいと考えております。」とのご答弁をいただきました。

インフラ整備、日本のインフラを一流なものにしていくためにも、国土交通省の定員、組織をしっかりとさせることが重要と思っております。皆様方のご支援をいただきながら、そうしたことが実現できるよう頑張りたいと思っております。よろしくお願いいたします。



建設ゆめクラブ 入会方法

ご登録は右下QRコードまたは足立としゆきのホームページよりできます。

足立としゆきホームページ <http://www.adachi-toshiyuki.jp>

ご登録はこちらから 

